



笑さく



落らく



岐は

語ご



伝でん

阜ふ

の



の



ずん

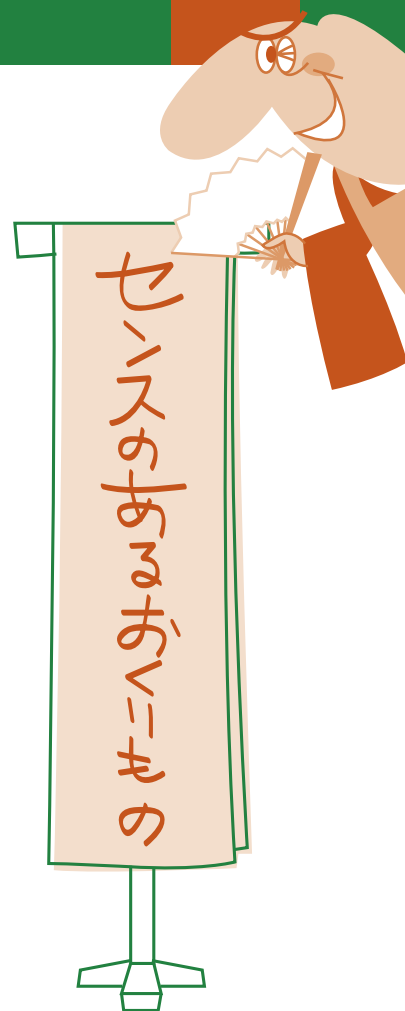


祖そ



岐阜市
笑い感動の
まちづくり





※
古道三が、信長公に、はじめて、
あいさつにでられた。

おくりものに扇子せんすを二本、もってきた。

ごぜんにいたひとたちのみんなに、

「なんと、まずしげなものだ」

というけはいが、おこった。

とりつぎのものに、道三は、

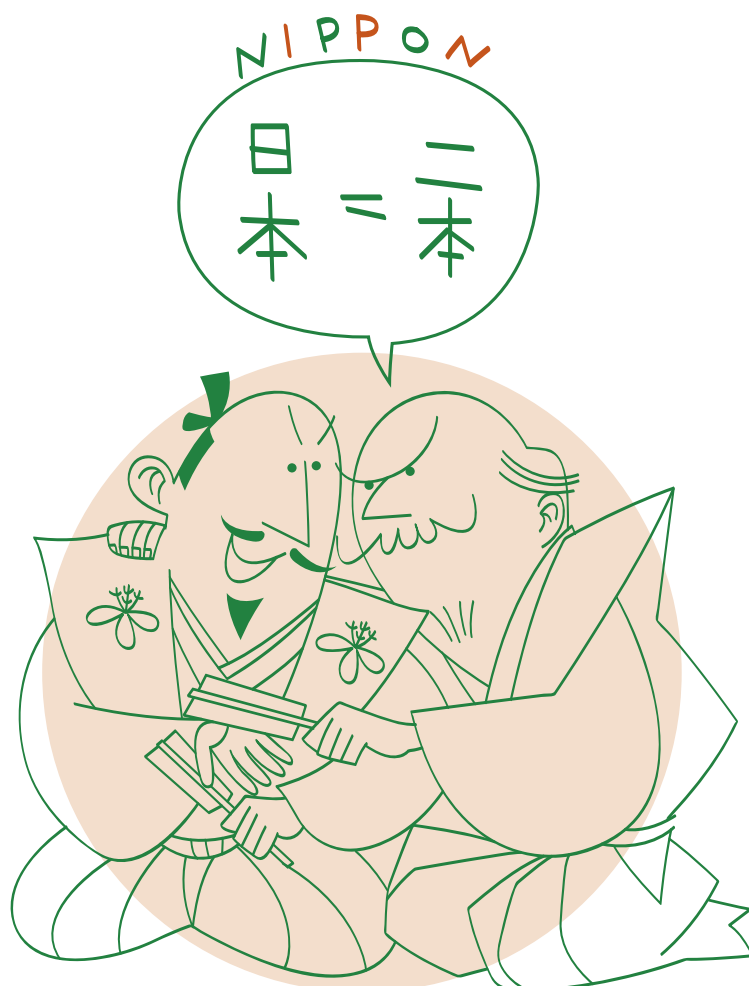
「殿とのに、もうしあげてください、

これで、めでたく、日本をお手のうちに、

にぎらせたもうように」と。

おかもとさよこ著

「さくでんさんの笑い話」(けやき書房)より



※古道三

本名を曲名瀬正盛まなせまさもりと言ひ、京都の医者。
岐阜の道三とは別人。



■ 策伝さんと岐阜のまち

戦国時代から江戸時代を生きた、
安楽庵策伝という、お坊さんがいました。

策伝さんは、一五五四年に美濃の国、

いまの岐阜市山県あたりで生まれたと言われています。

父は美濃の武将・土岐可頼

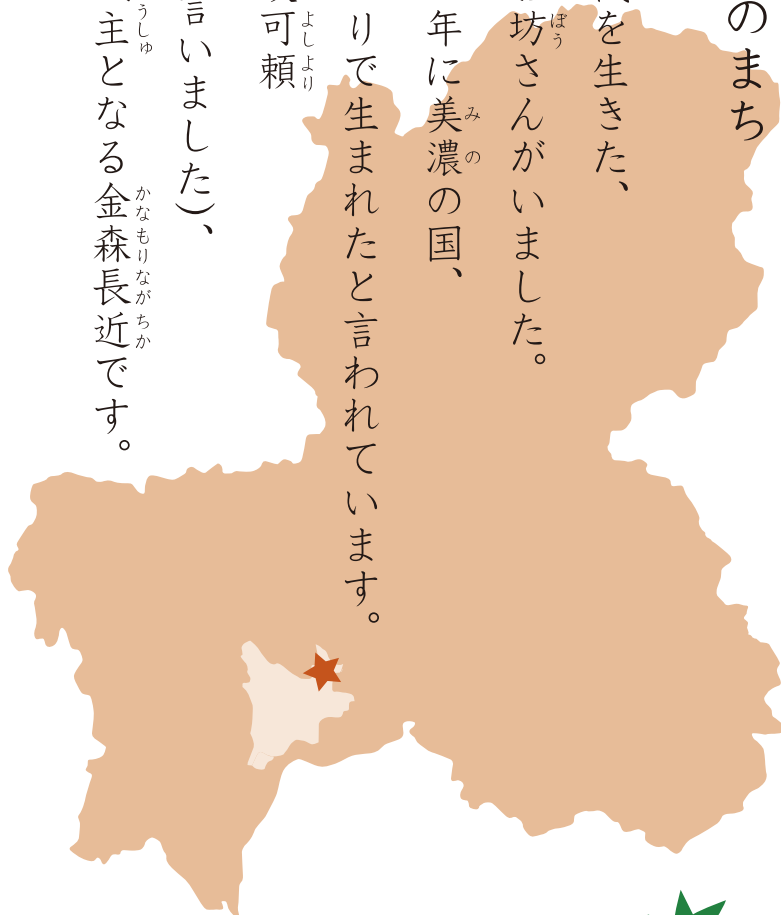
(この人は金森定近と言いました)、

兄はのちに飛騨高山城主となる金森長近です。

策伝さんは七歳で、

現在も岐阜市三輪にある淨音寺(浄土宗西山派)で
出家し、お坊さんへの道を歩むことになりました。

さらに十一歳のとき京都に行き、修行にはげんだのでした。





二十五歳になった策伝さんは、

山陽地方へ布教のために旅立ちました。

この旅で、なんと七つものお寺を建てるといふ、

すばらしい業績を挙げました。

四十三歳になった策伝さんは、出家をした浄音寺の

住職として迎えられ、

生まれ故郷の岐阜に戻ってきました。

こののち十七年間、

岐阜の地で浄音寺や立政寺を守りつつ、

茶道や文学など文化人として

その名を高めていきました。

落語の祖・安楽庵策伝

六十歳になった策伝さんは、

京都の新京極にある

大本山誓願寺の五十五世法主という、

偉い役職に迎えられました。

多くの人が、策伝さんの業績を認めていたのです。



このころには、当時の天皇の前で仏のお話をするほどの高僧こうそうになっていました。

その一方で「醒睡笑せいすいしょう」という

笑い話を集めた本を書きました。

「醒睡笑」は策伝さんが七十歳になった頃、完成し、

同時に、誓願寺の中に安楽庵あんらくあんという

茶室をつくり、そこに隠居いんきよしたのでした。

現在、策伝さんが「安楽庵策伝」と呼ばれるのはそのためです。

策伝さんは一六四二年一月八日に八十九歳でなくなりました。長生きですね。

「醒睡笑」は、「睡ねむりを醒さまして笑う」という

本の中の文章から題名がつけられました。

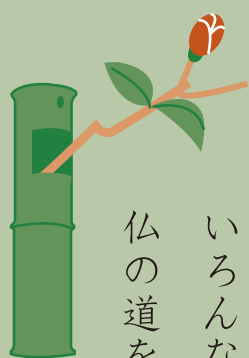
本には千あまりのお話が収録しゅうろくされていて、

後の世に「落語の祖」と言われるようになりました。

策伝さんは仏のお話がとても上手で、人をひきつけたと言われています。

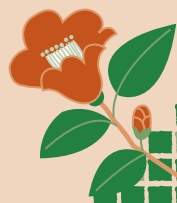
いろんな土地で当時の多くの字の読めない人たちに、

仏の道をわかりやすく伝えたのです。



安樂庵策伝上人・略年表

その時代背景



天文二十三年

金森定近（土岐可頼）の子として、美濃国山県郡で生まれる。兄は、後の飛騨高山城主・金森長近。

永禄三年

7歳、美濃国淨音寺にて出家。

永禄七年

11歳、京都東山・禅林寺（永観堂）にて修行。

天正六年

25歳、山陽地方へ布教の旅にでる。



岐阜市西荘の亀甲山立政寺



岐阜市三輪の西谷山淨音寺

天文二十三年

斎藤道三隠退し、子の義龍が家督を継ぐ。

弘治二年

斎藤道三、子の義龍と戦い、敗れて死去（長良川の戦い）。

永禄八年

飢饉により、美濃国の人が多く餓死する。

永禄十年

織田信長、斎藤龍興を攻め破って稲葉山城に入る。

天正三年

信長、家督と尾張・美濃を長男信忠に譲り、岐阜城主とする。

天正十年

本能寺の変、信長・信忠が自殺。

信忠の子の三法師（秀信）が織田家の跡継ぎと定められ、信長三男の信孝が岐阜城主となる。

天正十一年

信孝、柴田勝家らと結んで秀吉に對抗するがかなわず、岐阜城を開城。

天正十二年

家康と織田信雄が結んで、秀吉と対戦（小牧・長久手の戦い）。

慶長元年

43歳、美濃国浄音寺の25世住職。

慶長十四年

56歳、美濃国立政寺を預かる。

慶長十八年

60歳、京都・新京極、大本山誓願寺55世法主。

元和元年

62歳、「醒睡笑」の執筆開始。

元和九年

70歳、「醒睡笑」完成（全8巻）京都・新京極誓願寺、塔頭竹林院に隠居、茶室「安楽庵」にて晩年を送る。

寛永十九年

89歳、一月八日京都にて亡くなる。



醒睡笑（木版本・岐阜市歴史博物館蔵）

天正二十年

織田秀信、岐阜城主となる。

慶長五年

関ヶ原の合戦。岐阜城主秀信はその前哨戦で8月に敗北。

元和五年

岐阜町および美濃国内142カ村が尾張藩に加増される。

寛永十六年

幕府、ポルトガル船の来航を禁止する。



落語の祖 岐阜の策伝さん

絵 中川 学（アトリエこぼうず）

監修 関山 和夫（元佛教大学名誉教授）

発行 岐阜市笑いと感動のまちづくり実行委員会

事務局 岐阜市司町40番地1
岐阜市観光コンベンション課内
TEL 058-265-3984